

# 交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2021年6月17日

No.22

2021年度 夏季手当妥結！

基準内賃金×

# 1.77カ月で妥結!!

～2021年度 夏季手当交渉最終報告～

2021年度夏季手当交渉は5月19日の申し入れ以降、団体交渉等を積み重ね、職場で奮闘する組合員と共に闘ってきました。一年以上続くコロナ禍においても、エッセンシャルワーカーとして鉄道貨物による生活必需品の輸送を担い、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限努力している組合員と、その家族の切実な想いに応えるため団体交渉を積み重ねてきました。本日19時15分より最終交渉に臨み、席上、会社は基準内賃金の1.77カ月分とする回答を示しました。

中央本部はこの間の交渉の中で、①職場の組合員は、新型コロナウイルス感染の不安を抱えながらも指定公共機関として社会的使命を果たしている。②昨年度も多くの自然災害に見舞われたが、経常黒字を計上できたのは組合員の努力の結果であり、会社は業績に対する還元を行なうべきであること。③コロナ禍の中で収入計画未達の原因は年度初の計画値が高いことであり、計画未達を理由とした手当抑制は許さない。④職場では若年退職者が後を絶たず、人材流出防止とモチベーション維持のためにも夏季手当は重要である。⑤「JR貨物グループ中期経営計画2023」の達成や、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」の推進を担う組合員のために、長期的観点で先行投資するべきであることなどを訴えてきました。

これまでの交渉を踏まえた上で、①「昨年冬をどこまで上回れるか」という会社の姿勢を打ち破り昨年の夏季手当を超える回答を引き出したこと。②職場からの闘いにより「業績は賞与で還元する」ことを実施させ、上積みさせたことによって組合員の労苦に一定程度報いることができたこと。③新型コロナウイルス感染が懸念されながらも指定公共機関として鉄道貨物輸送を確保している組合員の努力の結果として還元させることができたこと。④人事制度のさらなる定着にむけて労使協議により問題解決をはかること。⑤老朽設備の改善やコロナ対策、ワクチン接種などの諸問題に対して、前向きに労使協議を行なう回答を引き出したことから、中央本部は今夏季手当について、これ以上の前進はないと判断し妥結することとしました。

夏季手当獲得闘争において、職場では3度目の緊急事態宣言下において役員会や集会など開催方法を工夫した取り組みによって現状認識の一致をはかり、全国統一職場集会や各種要請行動を中心にFAX行動などを展開していただきました。中央本部交渉を職場から支えていただいた組合員の皆さんに改めて感謝を申し上げます。今夏季手当獲得の闘いを総括し、次なる闘いにむけて取り組んでいきましょう。中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、夏季手当交渉の最終報告とします。

以上